

渥美郡三町の時代



※今月号から隔月で連載します。

郷土史編さん室 ☎36局6503

田原・赤羽根史現代編の編集に取り組んでいます

平成15年8月20日に田原町と赤羽根町が合併して田原市が誕生しました。そして、平成17年10月1日に渥美町と合併し、渥美郡三町を行政区域とする現在の田原市になりました。

合併前の三町は、いずれも町史を編さんし、地域の歴史を書き記してきました。『渥美町史現代編』は、平成17年の合併までの渥美町時代を取り上げています。

一方で、『田原町史』と『赤羽根



▲【写真上】昭和30年の駅前商店街のネオンサイン
【写真下】昭和30年代の赤羽根町大石海岸の地曳網風景
(いずれも田原市博物館所蔵)

町史』は昭和40年頃までの記述にとどまっています。

田原市教育委員会では、この地域の歴史を検証するとともに、空白となっている町史を補完して後世に継承していくために『田原・赤羽根史現代編』の編集に取り組んでいます。

編集は、市教育委員会が委嘱する「田原・赤羽根史現代編編集委員会」が行っています。

対象期間は昭和30年（1955）の昭和の合併から平成17年（2005）の平成の合併までの約50年間で、平成28年度の刊行を目指し編集作業を

進めています。

なお、『田原・赤羽根史現代編』の編集に当たり、市民の皆さんへ情報の提供をお願いする場合がありますので、その際にはご協力をお願いします。

【安井俊則委員談】

この現代編では、昭和30年からの田原町と赤羽根町に焦点を当てています。昭和29年生まれの私にとって、まさに自分の生い立ちを振り返る取り組みになります。私の記憶に残る三河田原駅前、道路も未舗装で、牛車で持ち込まれた農産物が山

のように積まれ、オート三輪が行き交うなど活気に満ちあふれていました。今の私たちの生活とは大きく違い、電話やテレビもありませんでした。心豊かな時代でした。

昭和30年からのこの地域の変遷（へんせん）を振り返り、史実を後世に正しく継承していくため、編集委員会で力を合わせて取り組んでいます。皆さんが本市の魅力を再発見する一助になれば幸いです。

田原・赤羽根史現代編執筆委員

石井一希、石井志津子、伊藤博文、大和貞雄、加藤克己、小林一弘、林哲志、葉山茂生、藤井啓貴、藤井忠、藤城信幸、藤原喜郎、八木将勝、安井俊則、山本正樹、渡辺幸久

今月の「表紙」

▼どろで汚れることを気にせず、むしろ大胆に体中どろんこになって遊ぶ園児たち。水と混ざった土は、自在に形を変えて、山になったり川になったりと、園児たちの思うがままに。単純に見えるこの遊びは、園児たちの心を解放し、たくさん笑顔があふれていました。自然に触れ合うことは、本当に大切なですね。(M)

【表紙の写真】北部保育園 どろんこ遊び